

飯田市 社会体育活動における青少年スポーツ指導の指針

1. 趣旨

飯田市では、学校での体育授業及びクラブ・部活動と同時に、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、社会教育関係団体など、青少年のスポーツ活動が多様な場で活発に行われています。

青少年期のスポーツ活動は、心身の健全な発達・成長にかかわる生涯スポーツの基礎を培う上で不可欠であり、発達段階や活動環境を配慮した適切な指導のもとで行われることが求められています。

昨今、子どもの体力低下が明らかにされる一方で、スポーツ指導現場から、過度な活動による肉体的・精神的な弊害、勝利主義の偏重、指導者による体罰や人権侵害など喫緊に改善すべき課題が現出し、国・県では青少年スポーツ指導のありかたの検討が進められています。

青少年がスポーツ活動を行う上で重要な役割を担っているのは、子どもたちに密接に触れ合い、指導に携わっている指導者です。飯田市では、スポーツ指導者が指導上特に配慮すべき基本的な事項について実状をもとに審議し、「飯田市 社会体育活動における青少年スポーツ指導の指針」を策定しました。

2. 飯田市青少年スポーツ活動における指導上の課題

(1) 指導者自身にかかわる課題

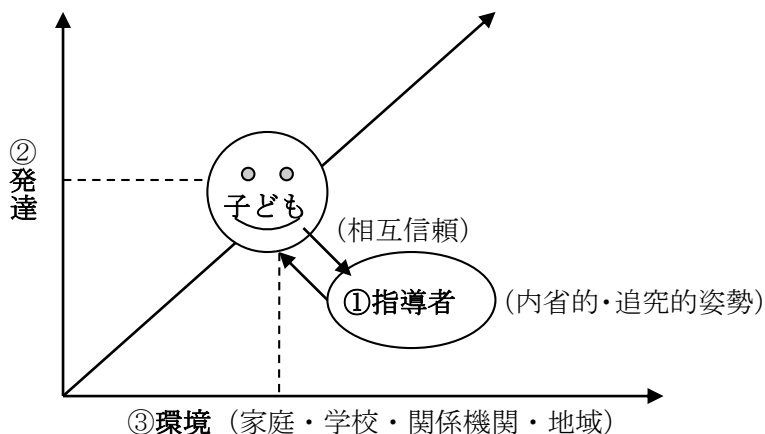
子ども・保護者等との信頼関係の構築、経験・勘のみに頼る自己本位の指導、自主性や楽しさを育てない押しつけ指導、勝利至上の過重指導、よりよい科学的方法の追究姿勢

(2) 子どもの発達段階を見通した段階的発展的な指導体制の課題（発達）

実態に伴わない無理・無駄な指導内容、見通しのない思いつき指導

(3) 学校、社会体育等関係機関との連携体制の課題（環境）

学校・社会体育相互の連絡体制欠如、学校・社会体育双方に関わる子ども・保護者の心身負担



3. 課題解決に向けた青少年スポーツ指導指針十か条

指導者自身に関わって

- 一、子どもの自主的、自発的な活動を促し、スポーツの喜びや楽しさを経験させる指導を心がけましょう。
- 一、子どもの心身の状態や環境に常に気を配り、事故防止、安全確保に十分配慮した指導を心がけましょう。
- 一、スポーツ活動時での「納得した説明・理解のもとで行う厳しい指導」と、「体罰や人格の尊厳を損ねる発言・行為等の感情的な指導」とをしっかりと区別し、誤った指導は絶対に行わないようにしましょう。
- 一、経験と勘のみに頼った指導ではなく、広い視野と科学的根拠をもった指導内容、方法を積極的に取り入れましょう。
- 一、幅広い確かな知識・技能に基づく指導力を発揮できるよう、積極的に資質能力の向上に努めましょう。

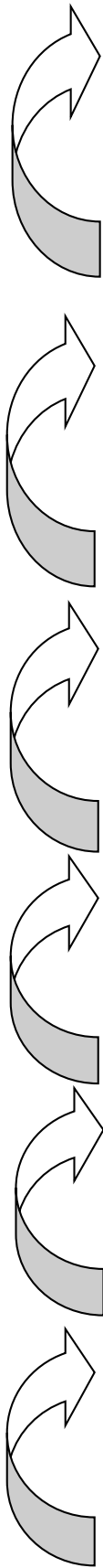
子どもの発達段階を見通した段階的発展的な指導体制に関わって

- 一、「発達段階における指導ポイント」を踏まえた適切な指導計画を作成し、実践しましょう。
- 一、子どもが、運動に対して「やればできる」という自信や、自分に対する自信につながる指導を心がけましょう。
- 一、同年齢・同地域だけでなく異年齢・他地域・他国など多様な仲間とのスポーツ交流を通して、自分も他者も共に大切にできる力と心を育みましょう。

学校、社会体育等関係機関との連携体制に関わって

- 一、一人ひとりの子どものスポーツ活動と休養とのバランスが適切に管理されるよう、家庭、学校及び社会体育関係者間で情報交換し情報共有に努めましょう。
- 一、指導者同士や競技団体間の定期的な連携の場を設け、互いに連絡調整をする指導体制をつくりましょう。

4. 発達段階における指導ポイント

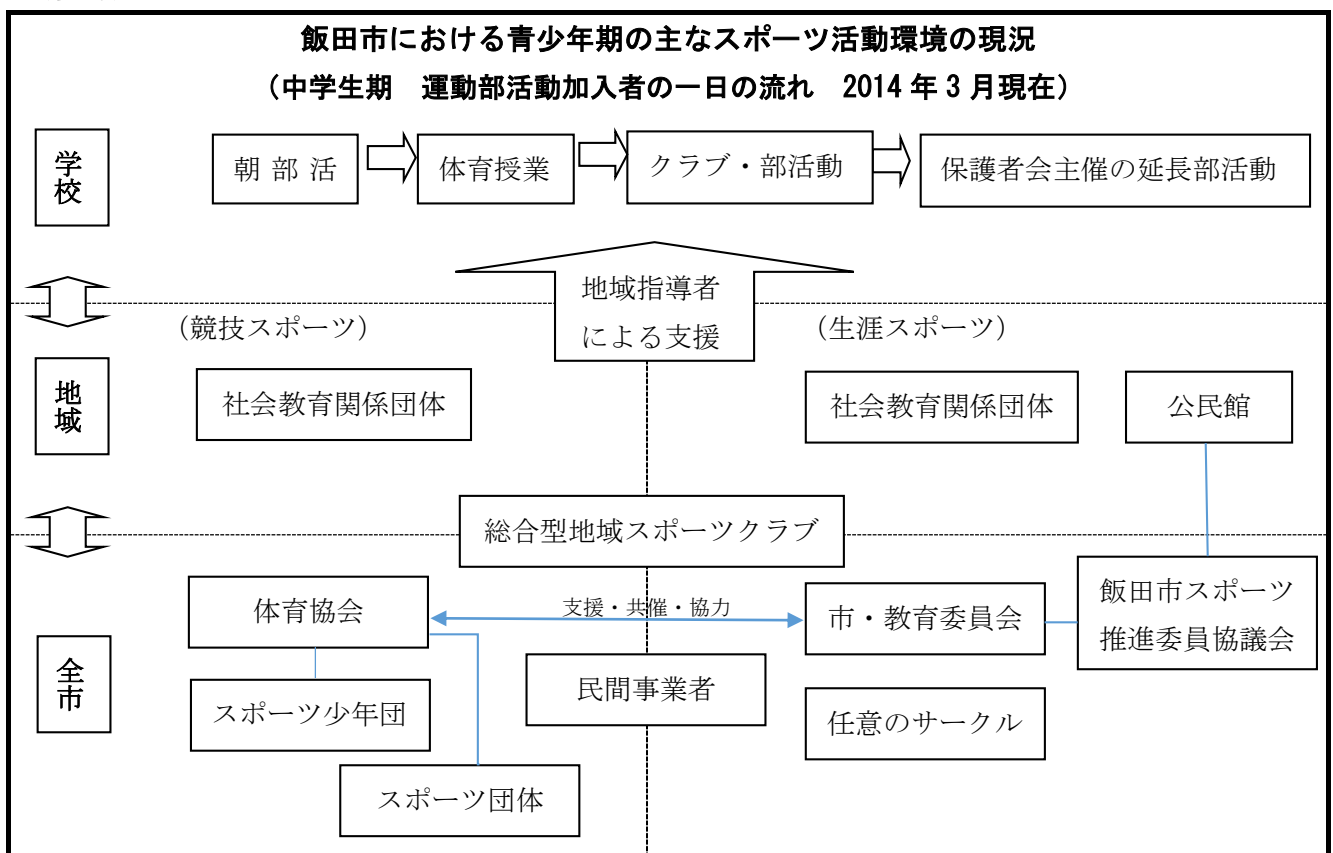


| | |
|------------|---|
| 青年期 | <ul style="list-style-type: none">○ 生涯スポーツの実践期であり、対象者の指向やニーズに即した指導に心がけましょう。○ 生涯スポーツが各人の主体性によることを意識して、メニュー提供型指導に終始せず、自ら年代に応じた活動内容を考え組み立てる力が習得できるよう支援しましょう。 |
| 高校期 | <ul style="list-style-type: none">○ 勝利至上主義や、管理的指導に陥らないように自主性・主体性や意欲を引き出すとともに、スポーツを習慣化する資質や能力を育成するような指導のあり方を、常に意識し追求していきましょう。○ 体力・運動能力・感受性に大きな個人差があることを念頭においた指導を心がけましょう。 |
| 中学校期 | <ul style="list-style-type: none">○ 人格形成への支援と、競技技術を高める指導とのバランスを常に意識して指導にあたりましょう。○ 部活動指導者と社会体育指導者が異なる場合は、双方の情報・意思疎通を密に行い、活動目標に一貫性をもたせるとともに、過剰な指導にならないように練習の内容と時間とを適切にコントロールしましょう。 |
| 小学校 高学年 | <ul style="list-style-type: none">○ 勝つことよりも、スポーツの喜びや楽しさ（仲間との心のつながりや、できるようになる喜び等）が実感できる指導を心がけましょう。○ 放課後や休日の練習が過度にならないようにしましょう。 |
| 小学校 中学年 | <ul style="list-style-type: none">○ 運動の楽しさや喜びを広げていくことを大切にした指導を心掛けましょう。○ 基本的な動きや技能を身に付けさせるとともに、運動への興味や関心を高めるような指導をしましょう。 |
| 小学校 低学年 | <ul style="list-style-type: none">○ 子どもが持っている多様な運動能力を、バランスよく引き出し伸ばすために、特定の競技のみに限定せず、多様なスポーツ活動を行うことを勧めましょう。○ 「体づくり運動」など、体の動きや運動の基礎となるいろいろな動きが楽しくできる指導を大事にしましょう。 |
| 乳幼児期 | <ul style="list-style-type: none">○ 子どもが興味関心を示し、自ら進んで身体を動かす「遊び」を通じて、多様な動作（身のこなし）を楽しみながら自然と体験できるような場づくりに心がけましょう。○ 危険な行為や、けんか等には迅速、的確に対処しましょう。 |

5、学校、社会体育等関係機関との連携体制づくりのために

- ・地域内外の多様なスポーツ活動の場が重なって過重負担にならないよう、子どもの健康管理に配慮することがとりわけ重要です。そのために、家庭、学校、社会体育等地域スポーツ関係者が互いに連携を取りながら、子ども一人一人のスポーツ活動時間と休養時間とのよりよいバランスが保たれるよう、日常的に適切な管理指導をしましょう。
- ・学校部活動指導者と社会体育指導者および地域のスポーツ関係者等が、子どもたちの活動実態や指導課題をもとに、それぞれの役割や責任の所在を明確にするなどの情報交換の場を定期的に設けましょう。

(参考)



本指針作成に当たって、文部科学省、長野県、日本体育協会、各競技団体等から示されている社会体育活動全般に関する青少年スポーツ指導の一部を参考にしました。発達段階、競技別の具体的な指導方法等については、下記資料を参考にしてください。

【参考文献】

- ・「運動部活動指導のガイドライン」 文部科学省 (2013.5.27)
 - ・「長野県中学校期のスポーツ活動指針」 長野県教育委員会 (2014.2)
 - ・「小学校体育(運動領域)まるわかりハンドブック 文部科学省
 - ・「スポーツ指導者のための倫理ガイドライン」 日本体育協会
 - ・「スポーツ少年団とは」 日本体育協会、日本スポーツ少年団
- ほか 各競技団体による指導者マニュアル等